



ロータリーは機会の扉を開く

# 国際ロータリー 2020-2021 年度 前橋北ロータリークラブ会報

2020年10月19日第1693回

会長 川口 武志 幹事 塚田 憲利

会場監督 城田副委員長



◇ロータリーソング 奉仕の理想

◇会員数 78名 ◇出席 71.66%

## ◇お客様ご紹介

RI2840 地区米山記念奨学委員会

高沢克治 副委員長

(伊勢崎中央 RC)



## ◇ニコニコBOX

伊勢崎中央 RC

高沢克治様…今日は米山奨学委員会の卓話でおじやしました。よろしくお願ひします。

川口武志会長…高沢様、今日は当クラブの外部卓話の為にわざわざお越しいただきありがとうございます。

上野宏史会員…結婚祝ありがとうございます。お陰様で無事に結婚 15 周年を迎えることができました。これからもよろし

くお願い申し上げます。

川村智重会員…結婚祝ありがとうございます。

鈴木 實 会員…結婚祝ありがとうございます。

五十嵐俊弥会員…結婚祝ありがとうございます。満 57 年、思い起こさせてくれるのは当クラブだけです。

◇幹事報告 塚田幹事 本日例会終了後、クラブ戦略計画推進プロジェクト会議を開催。

◇委員会報告 親睦委員会 上村委員長 10/26 夜間例会の件

ゴルフ部 大島秀夫会員

## ◇会長の時間「先週の行事」

本日は RI2840 地区の高沢さんをお招きいたしました。第 1 例会の会長の時間にて私と廣山委員長が米山記念奨学会セミナー受講した時に高沢さんが講話をされた内容をぜひ、当クラブでもお話頂きたいと思い起こし頂きました。本日はよろしくお願ひいたします。

先週の第 2 例会は職場訪問例会でした。このコロナ禍で職業奉仕委員会の方には色々ご検討を頂き「ハッ場ダム」へ行き、水陸両用バスに乗車する計画を小和瀬副委員長にまとめていただきました。この水陸両用バスは事前予約ができないので、小和瀬副委員長が協力をしてくれるバス会社の手配をして段取りをしてくれました。

ところが当日の 2 日前に新聞に水陸両用バスのフロントガラスにヒビが入り運休と記載されてまして、急遽、門倉委員長と連絡をとり、検討の結果このまま決行しようという事になりました。

この水陸両用バスは私も乗りたいと思っていましたし、参加される会員の方も水陸両用バスに乗車できると思って参加するわけですから、内心は冷や冷やしておりました。行先や予定を 2 日前に切り替えるのも観光バスの会社の方にもご迷惑がかかりますので、そのまま決行で「ハッ場ダムの周辺観光」に替えまして、土曜日には、参加会員に水陸両用バス運休でハッ場ダム周辺観光への変更とお伝えしまして、月曜日にハッ場ダム周辺観光へ行ってきました。

当日は、9 時前にバスで出発しました。お天気にも恵まれて、あがつま溪谷の周辺のハイキングコースを歩き、ハッ場ダムを見てきました。最後にダムカレーを食べて前橋には午後 3 時には到着いたしました。職業奉仕委員会の協力で順調に楽しく行ってこれることができました。ご参加いただき本当にありがとうございました。次回の職場訪問例会は来年 3 月に予定はしておりますので、今回参加できなかった会員の方も別のセッティングでお越し頂ければと思います。

それから昨日の話ですが RI2840 地区、地区大会記念ゴルフ大会がサンコー 72 カントリークラブで秋の晴天の中、開催をされました。こちらは参加枠が小さいのでクラブ内でも皆さんに声

を掛けて集めてるといふ形が取れませんでした。参加者は大島会員、岡野会員、三輪田会員と私。三輪田会員は急遽2日前に代わりに入って頂いたという流れでお越しを頂きありがとうございます。

当クラブからは1組だけの参加となりました。群馬県内45クラブあり、他のクラブは2組、3組の参加で総勢230名余り。成績はというと、団体戦は参加の30クラブ中29位。我々、あまり成績振るわずでしたが、ブービー賞ということでちょっとした物は頂いたので無駄に行っただけではないことをお伝えいたします。個人のスコアはいいですかね(笑)

この後、外部卓話で高沢さんから伺いますが、米山奨学事業というのは1952年に東京ロータリークラブが最初に企画をし、やがて日本全国のロータリークラブの共同事業へと発展しました。当初の合言葉が「毎月のタバコを1箱削って月で50円寄付をしよう」というそんな言葉を合言葉にしながら全国の日本のロータリークラブが始めたと言われています。

当時の50円が現在のいくらの価値があるか私も定かではありませんが、前回お話したようにこの寄付金で全て成り立っている事業ですので少なからず寄付が多くなれば奨学生がいろんな形で応援が出来るという事です。今日は高沢さんの良いお話を聞かせていただき是非とも特別寄付を皆さんから、少なくとも結構ですのでご協力を頂ければと思います。

#### ◇外部卓話 高沢克治副委員長

皆さん、こんにちは。今年度地区の米山奨学委員会の副委員長をやっております伊勢崎中央RCの高沢と申します。塚越さんと会長からだいぶハードルを上げられやりづらいますが😓。

今日は米山月間という事で先日もちょっとお話をさせて頂きました。実は私まだ入会して6年目です。先輩に脅され続けて嫌々入ったロータリーですが、この米山奨学生のカウンセラーを引き受けました。

一昨年の春、ガバナー事務所がある問屋会館で、ある奨学生のカウンセラーをしてから変わってきました。どんな風に彼と過ごしたかご紹介します。

彼は関東学院の3年生のタバ君、ネパールの31歳で色々話を聞きました。とんでもない所から来ていました。彼の出身はネパール。首都のカトマンズから車で11時間かかるそうです。5年前に電気が通り6年前に道路が出来ました。もちろんガスはなく、水はヒマラヤの天然水。そうゆう所の出身の子です。村には産業がないので村の男は全員出稼ぎに行きます。クエート、ドバイ、サウジアラビアで45度~50度の炎天下の中、土木作業をして月2万円になるそうです。仕送りをして帰ってくる、その繰り返しをして生計を立てている村なんです。その村からどうやって日本の大学まで来たのかと聞きました。

彼はそういった環境の長男で本当にお金がないので中学を出たら家を手伝おうと思っていたそうです。毎月300円掛かる高校の学費が払えなかったのです。しかし彼は優秀だったので村の人たちがお金を出し合ってくれて高校と大学に通えて日本まで来ました。彼の家は急斜面の小さな家です。本当に努力に努力を重ねてきたのです。

実は私は彼と一緒に出身地に行ってきました。私が初めての外国人という事で村長さんまで挨拶に来てくれました。我々ロータリーの活動として彼を海や大阪・京都観光へ連れて行ったり、ご寄付を募りネパールにいる奥さんを日本に招待しました。また今年のコロナ前の2月に会長中心にネパールに行きネパールのロータリークラブと交流してきました。

今までも奨学生はおりましたが、今回のタバ君は最初にふるさと紹介をした事で、ロータリーと米山奨学がうまく溶け込み今日のような深い活動になりました。彼は今年3月卒業し現在は太田のモバイルショップで勤めています。5年ほど働いた後、お金を貯めて村に帰り、村の人々が出稼ぎに行かなくてもいいような農業法人を立ち上げたいと言っております。

昔の米山奨学生は母国に帰って祖国との懸け橋になるというのが大前提なのですが、時代が変わり日本でお金を貯めてから帰る方が多いです。いずれは母国で会社を立ち上げたい、日本語学校を立ち上げたいというのは多いようです。

今回カウンセラーをやったおかげでロータリーの本質がわかってきました。お金がどのように役に立っているか理解できました。現在、地区へ出向して今年も28人の奨学生のお世話をしています。選考基準に経済事の記載がない為、裕福な子もいますが、60%の子が学費や生活費を自ら稼ぎ借金をして日本に来ている子もいます。ですから皆様方から頂いたお金は決して無駄になっていないという事を理解して頂きたいのです。そして来年はぜひ奨学生を受け入れて頂いて入会5~6年の方にカウンセラーをやって頂きたいと思います。ロータリーの事もよく分かります。そしてクラブに来た奨学生ともう少し交流を深めて頂きたいです。ロータリアンを育てる地区の為に来年は是非奨学生を受け入れて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

私がカウンセラーをして、こうゆう子達に役に立ってるんだという事をご紹介させて頂きました。また今後共米山奨学にご協力とご理解を頂く事をお願いしまして卓話とさせて頂きます。今日はお招き頂きましてありがとうございました。



米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏（1868-1946）は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長 泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー（カリフォルニア州）ウエスレヤン大学（オハイオ州）シラキュース大学（ニューヨーク州）で8年間の苦学の留学生活を送りました。



帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を”社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー（Philanthropy\*）の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。”何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。”他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。